

- 1 派遣期日 平成28年7月29日（金）
- 2 研修先 学校名（会場名） 筑波大学附属小学校
所在地 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>

3 研修内容 よりよい社会を創る子どもを育てる社会科の授業づくり

（1）アクティブラーニング（AL）とは何か？

平成27年8月にまとめられた「論点整理」によると、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、これから社会を創り出していく子供たちが社会や世界と向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を培うためには、学びの量とともに、質や深まりが重要視される。

筑波大附属小学校の社会科教育研究部では、「よりよい社会を創る子どもを育てる社会科の授業づくり」を研究テーマとし、アクティブラーニングの視点を基にして研究・実践に取り組んでいる。アクティブラーニング（AL）とは、子供が課題発見・課題解決に向けて主体的・共同的に学ぶ学習のことをいう。

（2）ALの視点で授業をつくる

ALは、特定の学習・指導の型や方法の在り方ではなく、習得・活用・探求の学習過程全体を見通した不断の授業改善の視点である。学習・指導の型や方法というものは、授業改善の一つの手段とするのであって、ALの視点に立つことでどのように授業が改善され、子供たちのどのような変容へ繋がったかが重要とされる。

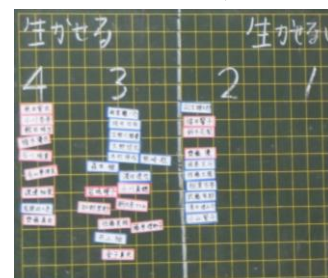
また、ALには「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」という3つの視点がある。この3つの視点のうち、「対話的な学び」と「主体的な学び」が注目され、「深い学び」については具体化されにくいという難点があり、「深い学び」の視点に基づく改善が図られていない指摘がある。しかし、この「深い学び」の具体化こそが重要とされている今、習得・活用・探求を見通した学習過程の中で育まれる「見方や考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、資質・能力を獲得していくことが「深い学び」と考えられている。

これらを踏まえ、筑波大附属小学校の社会科研究部では、クイズ形式のような進め方や単純な考えを求める授業を主とせず、子供たちがわくわくするようなストーリーを構成し、学びへの興味を引き出すことに力を入れている。従って、子供を本気にさせ、子供たちの「伝えたい」「話したい」を引き出すために、教材のしかけや集団の話し合いを手段としての工夫がされている。

（3）授業参観1（4年生「わたしたちの暮らしーごみのしよりと利用ー」）

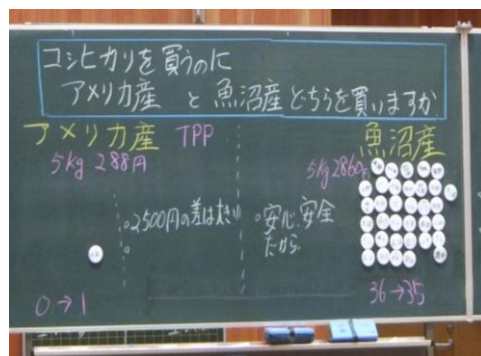
本時では、授業の導入として、前時で学んだ東京湾の埋め立て処分場見学において見つけた問題点を取り上げた。「ごみの埋め立て処分場は残り50年である」「浸出水が出る」「予算がかかる」「埋め立てた土地の利用は難しい」「ごみを減らさないとたくさん問題がある」などと児童から意見が出された。この挙げられた問題点をもとに、「ごみを減らすにはどうしたらいいのだろうか？」という課題設定に繋がれた。この課題に対して、「3R（リユース、リデュース、リサイクル）をしっかりと行う」といった自分の考えを子供たちが発表していく中、「ごみを海外に売ればいいのでは？」「売る必要はあるのかな？」といった意見も出て、数分討論された。その後、リサ

イクル率18.3%である東京都に対して、77.2%である上勝町を取り上げ、どうしてこんなに高いのか予想を立てさせた。「生ごみを出さない」「3Rを徹底する」などと意見が挙げられる中、上勝町を取材したスライドが提示された。上勝町には、収集場所、焼却場、埋め立て処分場がないことや51分別していること、ゴミステーションやくるくるショップがあることなど、様々な取り組みが紹介された。このような上勝町の取り組みの意味を考え、自分の考えや気づいたこと、疑問に思ったことなどを意見交換して全体で交流させた。最終的に、東京でごみを減らすのに上勝町の取り組みは生かせるか、生かせないかを考え、黒板にネームを貼り、自分の意見を明確に示させた。



(4) 授業参観2 (5年生「これからの日本の食料生産ー稲作とTPPー」)

「朝食に何を食べてきましたか」から授業は始まり、自分の家で食べている米の種類や米の食物自給率等を確認して、「お米は国産米魚沼産コシヒカリと外国産米カルフォルニア産コシヒカリどちらを買いますか」という課題が設定された。この時点で、全員が国産米を選択した。その理由として、「関税がかかるから」「農薬や遺伝子組み換えで安全面に欠けるから」「日本の自給率を高めるため」等が挙げられた。その後、資料を通してTPPとお米の関税について学び、77.8%の関税をなくすると、日本の米の8分の1くらいの費用で外国産のお米を手に入れることができることを確認した。これらを知った上で、「TPPの目的に沿って、関税をなくした場合だとどうなるのか」、また、「日本はTPPの交渉を進めているが、日本は米の生産に関してどのようにすると良いと思うか」を考え、判断し、意見を交換しながら考えを深めていった。



4 感想

授業参観1においては、自分たちが住むまちよりはるかに離れた徳島県「上勝町」を取り上げたことが授業の鍵となった。そうすることで、知らない土地の様子や取り組みを知り、子供たちの興味を引き出し、創造を膨らませ、考えを深めることに繋がったと考える。授業参観2においては、指導計画としては1時間の単位であったが、「外国産米カルフォルニア産コシヒカリ」を取り上げたことによって、TPPについて知り、子供たちが自由に意見を交換して、さらに自分の考えが深まった学習だったといえるだろう。

2つの授業参観から学んだことは大きく2つある。一つは、教材にしかけをすることである。社会的事象と照らし合わせながら、子供たちに何を学ばせたいのか、何を考えさせたいのかによって、取り上げる教材を吟味し、選定することが大切となる。内容次第でその後の授業展開が変わっていくと考えられる。もう一つは、活発に意見交換をしていることである。グループ学習という活動形態はなかったが、全体場で誰もが次々と意見を言える雰囲気あった。これは、社会科の学習はもちろんのこと、他教科や普段の生活において言語活動の充実が十分に図られているのだろうと考える。

「深い学び」の意味と重要さを知り、とても考えさせられる研修となった。しかし、まだ「深い学び」の視点に立つことやそれを授業改善に繋げることの理解が不十分であるのが正直なところである。今後はそれらについてさらに勉強し、授業改善に生かして、自分の授業力を磨いていきたい。